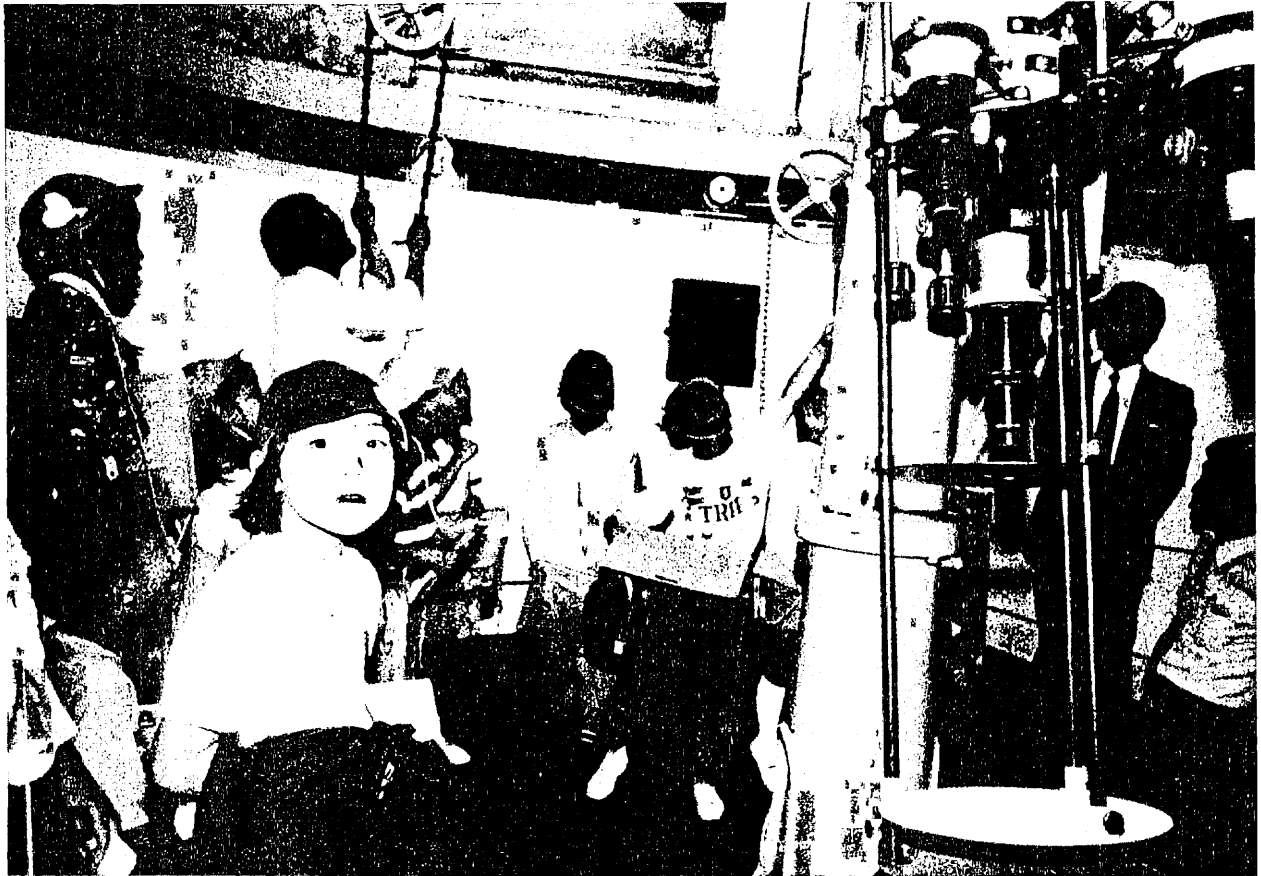


# 教育センターだより



生活科——天体観測ドームの探検——

## も く じ

- 生活科 — 天体観測ドームの探検 — ..... 1
- 巻頭言「環境教育」..... 2
- 公開講演・希望講座案内..... 2
- 新設講座の紹介..... 3
- 情報化時代に求められる教育  
— 公開講演から — ..... 4
- パソコン通信の活用..... 4
- 全国教育研究所連盟総会・研究発表大会..... 5
- センターにかわいい研修性、刊行物紹介..... 5
- 第5回夏季教育セミナー大会要領..... 6
- 第5回夏季教育セミナー研究発表等の内容..... 7
- 平成4年度運営機構..... 8

第 5 4 号

平成4年7月15日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号

☎ (0188) 32-3594

# 環 境 教 育

所 長 齋 藤 實 則



現代の学校教育の課題の一つに環境教育がある。環境問題が開発と公害の関連で社会問題として指摘されるようになったのは、一九六〇年代に入ってからである。

一九七二年スウェーデンのストックホルムで開催された国連人間環境会議で「開発と環境と資源」について論議され、人間環境宣言が採択され、更に関心が高まった。

最近では、児童生徒の理科・科学の調査研究でも、酸性雨などをテーマとして取り上げる例が多くなったが、調査方法の吟味検討が必要であろう。

さて、環境という用語は（環は、(1) 円型の輪の形をした玉 (2) ぐるりとまわる・かこむ (3) もどる。境は、(1) 土地の切り目 (2) 場所・地域 (3) 周りの状況 (4) 段階。）単純には周囲を取り巻くものという

意味である。しかし、environmentは生物学では、固体を取り囲む一切の諸条件を指し、地理学では、人間生活に影響を与える、周囲を取り巻く外的諸条件（自然環境と社会環境）の総和をいう。

環境問題を学校教育で取り扱う場合、そのアプローチの方法はいろいろあると思うが、国際宇宙年でもある今年あたりは、壮大な宇宙観から始めるのもよいではないか。

虚空、百数十億光年ともいわれる宇宙に存在する銀河群、その一銀河のなかの太陽系、そして太陽ファミリーの中のスターである地球に生命が存在する。

あるいは、地球は全宇宙のなかで、生命の存在する唯一の星かも知れない。まさしく、only one earthなのである。

その地球の歴史は四十六億年という。そこに人類が誕生したのは二百万年前というから、地球の歴史を一年間に換算すると、人類は十二月三十一日の午後八時ごろ地上に出現したことになる。

その新参者の人類が、いま、地球上を我が物顔で闊歩し、樹木を伐採し、資源を浪費し、公害を起こしながら、環境を破壊し続けているという観点も成り立つかも知れない。

事実、東南アジア、アマゾン川流域などで年間十一万平方キロメートルの熱帯林が減少しつつあり、西暦二〇〇〇年にはその約四〇％失われると心配されている。また、サハラ・タクラマカン砂漠などの周辺に分布する乾燥地域においては確実に砂漠化が進行している。人類はもっと自然に対して謙虚であるべきでなからうか。

環境教育を進めていく場合、教師の環境観が最も重要である。それは環境の哲学の問題である。

環境教育の目標を「人間のよりよい、より長い生存のための人間生態の最適化を目指すもの」とする沼田真氏の意見に異論はない。が、

八木重吉の詩

花はなぜ美しい  
ひとすじの気持で咲いているから  
らだ

と受けとめるような素直で優しい思い遣りの心と、海岸の堤防の漏水を発見、これを防ぐため自分の指を突っ込んだという、オランダのハンス少年のような勇氣と実行力を養うことが、環境教育の原点であるように思える。

## 公 開 講 演 希 望 講 座 案 内

☆公開講演聴講希望の方は実施二日前まで当教育センターへ申し込んでください。

◆授業改善の進め方

— 意欲を高める学習指導 —

10月30日(金) 13時30分～15時

早稲田大学助教授 坂野雄二

◆郷土を題材とした小説

11月6日(金) 13時～15時

東北大学教授 菊田茂男

◆新しい学力観と授業改善の在り方

11月27日(金) 10時～12時

山形大学教授 沢井昭男

☆希望研修講座のうち、これから受講申込み可能なものの一部を紹介いたします。なお、次に掲げた以外の希望研修講座については、直接お問い合わせください。

◆小・中学校学校図書館研修講座

9月1日(火)

◆中学校国語科教育研修講座

9月22日(火)

◆中学校社会科教育研修講座

9月24日(木)～25日(金)

◆中学校理科教材教具製作研修講座

10月7日(水)～9日(金)

◆高等学校国語科教育研修講座

11月6日(金)

◆高等学校情報処理教育(家庭系)研修講座

12月15日(火)～17日(木)

高等学校家庭科

情報学



「簡単な燻製」の実習

平成六年度から、高等学校家庭科には「家庭一般」「生活技術」「生活一般」の三科目が設置される。そのうち一科目(標準単位数4)が男女必修になるのに伴い、当教育センターでは、新たに次の二つの研修講座を設け、対応することにした。

◆高等学校家庭科教育(男女必修科目)研修講座

期日 平成4年11月9日(月)～10日(火)

内容

第一日

・男女履修校の現状と課題

・家族の健康管理

第二日

・生活設計と高齢者の生活

・児童文化財の製作と生活文化

◆高等学校家庭科教育(家庭電気・機械)研修講座  
期日 平成4年9月17日(木)～18日(金)

内容

第一日

・電気の話(分電盤、照明等)

・電子レンジの仕組みと使い方

・電子レンジで押し花作り

・電子レンジで調理実習

なおこの日の会場はアトリ

オン三階 東北電力ライフデザイン館センスで行う。

第二日

・電気・電子機器の管理と活用

・電気・電子機器の基礎原理と構造

また、高等学校家庭科教育(食品科学)研修講座でも、手作り段ボールで「簡単な燻(くん)製」の実習を行い、男女必修に対応できるように内容を深めているところである。

新設講座の紹介

①高等学校家庭科の男女必修にかかわる二つの講座及び情報学について紹介します

秋田県教職員研修体系の改訂に伴い、今年度開設した講座である。

情報化社会における人間と情報、教育と情報、歴史における情報の果たす役割について去る六月に研修を行った。

講座の内容は次のとおりである。

一 講話

情報の文明的考察

二 講義

①情報の理論とその特性

②コンピュータのハードウェアとソフトウェア

③新学習指導要領における情報化への対応

④情報化の影と情報モラル

三 協議  
コンピュータを活用した学習指導

四 演習

学校における教育情報とその活用

五 講演

情報化時代に求められる教育

情報教育とコンピュータ教育についての講演(内容は次のページに掲載)。

本講座は、コンピュータを使わず、情報の理論を多角的に理解することをねらいとしたもので、情報の文明的考察においては、情報の文明史観を検討し、情報の歴史を展望しつつ情報と人間の関わりについて研修した。

①～④の講義では、情報理論やコンピュータの構成とソフトウェア等について考察し、情報化への具体的な対応の仕方を提示した。

また、協議では、各学校からハードの導入・活用の状況、学習指導上の問題点などを出し合い、大変有意義な意見の交換が行われた。

上越教育大学の南部先生の講演では、コンピュータを学習の道具として用い、課題(問題)解決学習としての情報教育を推進すべきことが強調された。

演習では、教育情報の具体的な活用の仕方を研修した。

来年度は、本年度の反省を踏まえさらに充実するように工夫をしていきたいと考えている。



学校におけるコンピュータ活用の例を調べてみると、小学校ではコンピュータに慣れ親しむ態度の育成が行われており、中学校では学習指導にソフトを利用し、課題解決に利用して基礎学力の向上を図ることなどが行われている。コンピュータ利用

教育と情報教育の関係については、プログラミング使用から応用ソフトの利用へ、教師の道具から子供の自己表現の道具として変わってきている。

また多様化、個性化した情報化社会の教育はいかにあるべきかということについては、思考力・判断力の育成とともに自ら学ぶ意欲と態度の育成や情報化への対応の手段としてのコンピュータの使用を目指すべきである。

ロゴの開発者は、コンピュータをあまり意識せずに幼児期から使用させたい、鉛筆代わりに思考の道具として使用させたいと考えた。また、人間が苦手とするところで道具として使用し、コンピュータ使用の必然

性を実感させる。教師自身が課題意識を持ち、コンピュータの必要性を体験させることによって進んでコンピュータを使用する態度へ変容させることが大切である。

問題（課題）解決学習としての情報教育を考えるべきである。ドリルの学習はコンピュータを活用しなくても可能である。情報教育を進めるためにコンピュータ利用上留意することは、道具であるためには人間の不得意な部分に活用することであり、頭の中を映し出す道具、鏡であるためには、思考のプロセスを大切にすることである。

このように、子供自身に主体的に課題意識を持たせ、試行錯誤させながら体で覚えさせなければならぬ。道具として使わせるための場面設定を教師がして、生徒が自己評価し、再思考を図らせることである。

教師の役割は相談役であり、知識の分配者ではない。カウンセラーとしての役割である。教師は概念的な評価ではなく内面的評価や思考過程を評価するようにしたい。

コンピュータ活用教育をしながら情報教育を行い、情報教育的なコンピュータ活用教育をして行く。そして、小中学校時代に生涯学習の基礎を身につける態度を育成していく。学校教育はそれを担っている。

（上越教育大学助教授 南部昌敏氏の講演要旨を当教育センターがまとめたものである。）

# パソコン通信の活用

当教育センターでは、教育用ソフトウェア開発委員会を設置し、学習指導用の、パソコンを活用した教材を作成してきました。また、県内の先生方が作成したパソコン教材を収集しております。

昭和六十三年度から県内の学校に教材ソフトの提供を開始しましたが、受領方法としては、来所や郵送、電話回線を使つてのパソコン通信などの方法があります。パソコン通信で教材を受領すると、即座に授業に活用できます。

そのほかに、会員間のメール交換や、グループでの情報交換を行う電子掲示板も設けています。会員同士の情報交換に利用することができま

す。

現在、当教育センターのようなパソコン通信のホストが全国にたくさんあり、実際に生徒たちがパソコンで、国内・国外の子供たちと通信を楽しんでいる例も

- パソコン通信に必要なもの
- (1) パソコンまたはワープロ (RS-232C 装備)
  - (2) モデム
  - (3) 通信ソフト
  - (4) 電話回線 (専用回線、0 発信の校内電話または切替式)

- 当教育センターの通信規格
- (1) 電話番号 = 0188-36-3462
  - (2) 通信速度 = 最大 9600bps
  - (3) データ長 = 8 bit
  - (4) STOPbit = 1

- 体験用 (8 月末まで使用可)
- ID = 120
  - パスワード = JTKC47
  - 問合せ電話 = 0188-32-3594

数多く報告されています。情報活用能力の育成や、国際理解教育にも大いに役立つものとされています。

各種の商用ネットの中にも、活用効果の期待される情報がたくさんあります。

教育センターには現在一三三校が教育用ソフトの利用登録、五二校が通信での受領登録をしています。登録は電話回線を使つて行うこともできます。パソコン通信には、ある程度の準備と知識が必要ですが、その活用効果は大きいものがあります。

八月末まで体験用の登録番号とパスワードを設定しますので一度実験してみてください。

パソコン通信に必要なものと当センターの通信規格は次のとおりです。

# 全教連

## 秋田大会

平成4年度全国教育研究所連盟総会並びに研究発表大会が、去る5月20日から同23日まで、秋田市の秋田県総合生活文化会館（アトリオン）で開催された。

研究発表大会の開会式には、文部大臣代理として岡村豊官房審議官、橋本顕信県教育長も出席した。特に、音楽ホールを使ってパイプオルガン演奏で歓迎したこともあり、大会の雰囲気は一気に盛り上がった。

### あの光っている大きなほうしはなんだろう センターにかわいい研修生

六月五日

「こんにちは。僕は大住小学校の  
〇〇〇〇〇〇です。」

見ると、かわいいかわいらしい訪問客。大住小学校二年生の町探検グループの十五名である。その訪問客に應對している所員の顔は、普段のそれとはまったく違って見えるから不思議だ。子供には大人を変えてしまう力があるのだから。



小学校においては、この四月から  
新学習指導要領が全面实施となり、

心はどんどん膨らみパソコン室、そ

記念講演は、新野直吉秋田大学長から「古代環日本海文化と秋田」の演題で、日本海をとりまく国々の興亡盛衰や北方諸民族と古代秋田との交流など興味尽きないお話を聞いた。

研究発表の第一部は、共同研究として、岩手県立総合教育センターから「個を生かす教育指導の在り方に関する実践的研究」、甲斐教育・心理研究所から「生徒指導・学校教育

県内三三三校で新教科『生活科』が始まった。この『町探検』は児童の

冒険的な夢と期待をエネルギーにして展開される。

「これは、なんですか？」

「望遠鏡ですよ」「どうして、ここに望遠鏡があるのですか？」

天体観測ドームは児童にとってキラキラ光る大きな帽子に見えたの

相談の推進に関する研究」が発表された。

第二部は、五つの分科会で、合計42本の発表があった。学習指導分科会では、個性を生かす学習指導、基礎基本の定着、生活科の授業展開など、生徒指導分科会では、不適応状態にある児童生徒への指導・援助、学校教育相談の在り方など、情報教育分科会では、教育情報ネットワークの実施、自作教育ソフトの開発など、教育一般分科会では、選択教科の拡大、初任者の意識調査、学校教育目標の具現化など、現在の教育界のトップレベルの発表があった。

なお、当教育センターから、安田主任指導主事が「教育活動における環境教育」、木口主任指導主事が「地域の教育力を生かした学校づくりの在り方」を発表した。

全国の教育研究機関から三〇〇名を超える方々が参加したが、所長以下所員一人一人が、まごころをもって迎えでき、参加者には、秋田大会として大きな感銘を与える大成功の大会であった。

してプレイルームへと広がっていく。

「また、来てね！」「また、来るよ！」

十五名の探検隊はさわやかな風を残して帰って行った。

### 平成三年度 刊行物の紹介

#### ◆高等学校理科課題研究事例集

新高等学校学習指導要領では、理科における探求活動が一層重視された。特に、課題研究では、生徒自らの力によって、自然の事物・現象の中から課題を見つけ出し、それを解決していく過程の中で、科学的に探求する能力・態度を育成することを大きな目的としている。

この事例集は、これに対応して、テーマの設定や学習活動を展開していく上での参考資料として作成されたものである。

#### ◆登校拒否（不登校）の指導・援助の手引 — 予防と対応 —

学校に行きたくても「行けない」という児童・生徒が年々増加している。彼等には、生きていくことのみならず、唯一度だけの若い日々で、あることを感じさせるきっかけを与えてやることは、保護者とともに教師の使命でもある。本書は、教育相談を通じて、登校できない多くの児童・生徒とともに歩み、学習してきたことをまとめたものである。コピーして活用できるよう配慮している。

#### ◆教育研究資料件名目録（第24集）

全国の学校、その他の教育機関で発行する研究紀要、研究報告をテーマ別に分類、整理したものの。

#### ◆研究紀要（第23集）

所員及び一か年研修員の調査研究報告

# 第5回 夏季教育セミナー

テーマ 「これからの学校教育を考える」

主催 秋田県教育センター

時 8月5日(水)

所 秋田市文化会館

本県教育の課題の解決にむけた県教育センターの研究を発表し、それをもとに広く意見を求め、本県学校教育の活性化に寄与する。

## シンポジウム

テーマ

児童生徒の心をとらえるこれからの学校教育

コーディネーター

小 松 元 也 (秋田大学教授)

パネリスト

京 野 学 (湯沢ロイヤルホテル社長)

佐 藤 忠 信 (大館市立東中学校校長)

佐 藤 暢 男 (秋田魁新報社編集局次長)

松葉谷 温 子 (県生涯学習センター家庭教育相談員) (50音順)

## 課題別協議会

第1分科会 学力を高める教科指導の在り方……………第2会議室(4F)

第2分科会 個を生かす教育指導の在り方……………大会議室(5F)

第3分科会 地域の教育力を生かした特色ある学校づくりの在り方……第4会議室(4F)

## 日程・内容

	10:00	10:30		12:20	13:20		15:30
受	開			昼			閉
付	会	シ	ン	食	課	題	会
	式	ン	ポ		別	別	式
		ウ	ウ		議	議	
		ム	ム		会	会	

申込先 〒010-14 秋田市仁井田緑町4番2号  
秋田県教育センター ☎0188(32)3594  
申込方法 各校に配布した実施要項の申込書で  
申し込んでください。

# 課題別協議会における研究発表内容

## 学力を高める教科指導の在り方

### 第Iプロジェクト

#### 一 研究のねらい

今日必要とされる新しい学力を正しく認識してその向上を図ることが学校教育の大きな課題となっており、従来の教科指導の在り方について見直しを迫られている。

この状況を踏まえて、学力向上のための理論的実践的研究を行い、研究主題についての具体的方策を提示することをねらいとしている。

#### 二 研究の内容

平成三年度からの三か年計画の研究であり、三年度は、今日必要とされる学力についての理論的考察及び本県中学生の学力の実態と各学校の指導体制について、調査しまとめた。

今年度は、新しい学力観に基づいて教科指導を進める上での課題と方策をまとめ、仮説に基づいて研究協力員による検証授業を実施し、考察する。来年度は、今年度の研究を更に深めて、その成果を刊行する予定である。

#### 三 発表の概要

##### 1 調査研究

本県の児童生徒ならびに教師の学習に対する意識の実態を明らかにしながら、新しい学力観に基づいて教科指導を進める上での問題点について考察する。

##### 2 学力を高める教科指導の課題と方策

①意欲・関心の育成、②思考力・判断力の育成、③表現力の育成 の観点から、教科指導の工夫改善の視点と方策について提案し、参加者の意見を拝聴する。

## 個を生かす教育指導の在り方

### 第IIプロジェクト

#### 一 研究のねらい

児童・生徒一人一人がかけがえのない人間であるという基盤に立ち、「一人一人の存在を大切にすること」と「それぞれの特性を生かす」ことの二つの視点から、教科、教科外、環境の三領域における「個を生かす教育指導」の望ましい在り方を探っていくこととするものである。

#### 二 研究の内容

小学校、中学校、高等学校各三校の児童・生徒と教師の意識調査を実施。平成三年度はその分析と考察を試み、校種別と、各校種に共通する面からの「目指す児童・生徒像」「個を生かすための心がけ」等について発表した。

今年度は共同研究協力校として小学校、中学校、高等学校各一校を依頼し、「個を生かす教育指導の在り方」についての具体的な方策を探るために、仮説に基づいた研究を実施している。

#### 三 発表の概要

(小学校) 教科、教科外、環境の三領域から、一人一人のよさを見つめた教育活動の在り方を探る。

(中学校) 意欲を持たせ、成就感を味わう指導過程の工夫を授業の場で試み、生徒の意識の変化を探る。

(高等学校) 体験学習(施設実習)を通して、心の成長、社会観の形成、自分らしさの

発見と伸長等、生徒の変容をみる。

以上実践的研究の経過および結果の概要報告をし、参加者の意見を拝聴する。

## 地域の教育力を生かした特色ある学校づくりの在り方

### 第IIIプロジェクト

#### 一 研究のねらい

かつての地域が持っていた教育力と人間形成の機能が大きく変化し、低下していることは、いろいろな事例等から実証されている。

新学習指導要領でも、地域学習やふるさと教育が強調されており、教科・特別活動・学校行事等教育活動の全領域にわたって地域の教育力を生かした特色ある学校づくりの在り方を探っていくこととするものである。

#### 二 研究内容

平成二年度から平成四年度までの三年間の研究である。三年度は、鉱工業・漁業・農林業・都市的要素等に特徴のある地域の教育力を調査・発掘して、その地域の教育力を有機的に構造化した。

今年度は、地域の教育力をとらえる視点を明確にして、発掘した地域の教育力の整備を図り研究協力校の実践事例を中心にして、各地域の教育力を活用した特色ある学校づくりの方向を指向し、手引書としてまとめる。

#### 三 発表の概要

(小学校) 地域の施設・設備の活用、社会教育との連携、自然体験等の実践事例をもとにした特色ある学校づくりの在り方を探る。

(中学校) 特色ある人材活用を中心とした地域の教育力の活用を探る。

(高等学校) 交流学習、体験学習を中心とした実践事例を通して特色ある学校づくりの在り方を探る。

# 平成4年度 運営機構



※お知らせ：週休2日制に伴い、9月から土曜日の図書資料室等の利用はできません。